

---

## 15. 1人1人が自由な発想で参画できる創造的住まいづくり

ふくおかenネット21  
(福岡県福岡市)

---

### I. 活動の背景

住まいに対する基本的な願いは快適に安心して住み続けられることです。良い住まいを手に入れるためには、情報を集め、さまざまな検討をする必要があります。しかし商品としての住宅はどうしても供給側の都合が優先されているのが現実です。立地や価格、間取り、周辺環境は吟味できますが、近隣関係は住み始めるまでわかりません。それならばいっそのこと思い通りの住まいを自分たちの手でつくってみたいと考える仲間が集まり「ふくおかenネット21」という会が発足しました。

### II. 活動のテーマ

「ふくおかenネット21」は「人と人とのつながりを大切にした住まい作り」を目標に

1. コミュニティ：子供から大人まで、多様な年代が住み合うコミュニティづくり
2. 暮らし：安心して暮らし、楽しく住み合える環境づくり
3. 創造：既成の概念にとらわれず自由な発想で創造的住まいづくり
4. 感性：知識知性にプラス豊かな感性を大切にした住まいづくり
5. 交流：九州で町づくりや地域活動に先駆的活動をしているグループとの交流によって、まちづくりの視点から住まいづくりに取り組んでいく。

といったテーマを持って環境や地域、人間関係に配慮した暮らしや住まいをデザインし、共同作業を通してコミュニティ形成の楽しさを味わい、魅力ある住み手主体の住まい作りを進めていこうと考えています。

### II. 活動の内容

#### 1. 例会

活動の方針や具体的な進め方を考え情報交換する例会を月一回程度開催しています。あわせて会の主要情報、活動記録誌「えんむすび新聞」を発行しています。

#### 2. デザインワークショップ

ワークショップ形式で、住み手自身が自分たちの住まいをデザインしていくことを目指して、デザイン手法を学びコラボレーションの実践をしています。

##### ・アートワークショップ

住まいのデザインに取り組むために常に「感性」を豊かにしていこうと考えています。

また共同作業に楽しく参加する雰囲気づくりを目的に、環境ウォッチングや簡単



デザインワークショップ  
住まいのイメージづくり

な環境デザインのアートワークショップを行っています。

- ・「住まい」のイメージとコンセプトづくりワークショップ  
こんな暮らしがしたい、こんな住まいがいいなといった一人一人の思いを語り「住まい」のイメージをより豊かなものにしていこうと考えています。
- ・デザインランゲージづくり  
一人一人の思いを重ね合せて集住の可能性を探り、より具体的にスケッチにしていきます。集まって住むことで初めて可能になる魅力的な『集住のデザインランゲージ』作成を目指しています。

### 3. en ネットフォーラム

住まい作りにかかわる具体的な問題点や進め方、方針について全員が納得できる状況を常に作っていくことを目指しています。会員全員が意見を出しあうとともに、専門家や経験者に意見、アドバイスを求めていきます。コーポラティブ方式や事業方式・計画の検討や敷地の選定作業をフォーラム形式で進めています。

### 4. 交流会イベント

先進事例の見学やすまいづくりまちづくり活動グループとの交流会を通し、会員相互の親睦を深めると共に情報交換のネットワークづくりを積極的に進めていこうと考えています。

## III. 活動の効果

こうした活動を通し、現在二つの『きざし』が見えてきています。

一つめは環境づくりやまちづくりの主体としての「住み手」の意識が芽生え始めている『きざし』です。これは第一に内外ともに意識的に交流をしてきていることによるものと考えられます。福岡県三潴郡城島町のまちづくりグループ「ふれアオ塾」の方々との交流会では、まちづくりへの姿勢や、共有空間の地域への開放活用などの具体的なイメージが得られました。こうしたまちづくりに積極的に関わる方々とのネットワークづくりを通



Mポートの住人との交流会

して各自がコミュニティとどのように関わっていくかという意識が高まってきています。またこうした開かれた交流の場やワークショップを通して、個々人のさまざまなライフスタイルを前提としつつ共有できる接点を発見していく姿勢が生まれ、緩やかな共同の場が形成されつつあります。とかく煩わしいものと敬遠されがちなコミュニケーションの場に、個々の関心や興味を大切にスマートな個人主義をもって参加することで、互いの理解が深まると同時に相互のプライバシーを尊重しあう関係が生まれてきているといえます。こうした「住み手」の意識が、これからのあたらしい共同体を作っていくだろうと考えています。

二つめは、「住み手」の意識でよりよい集合住宅が実現できるだろうと確信しはじめた『きざし』です。第一に参加者が、住み手が主体となって個人の生活とともにコミュニティや環境との関係に配慮した『住まい』を実現することで、より各自の暮らしがより豊かに

なっていくと強く意識し始めていることがあげられます。九州におけるコーポラティブ住宅の先進事例である熊本Mポートの方々との交流会では、コーポラティブを進める具体的なアドバイスをもらうと同時に、現実的に暮らしてみた上でのコーポラティブの住みごちの良さなどのお話を伺うことができたことが大きな刺激となっています。

第二に、そうした『住まい』の在り方のイメージが少しずつ固まり始めていることがあげられます。『デザインワークショップ』においてつくられつつあるイメージが個人の生活を大切にするとともに、コミュニティを積極的に育むことにも重点がおかれている点からそれはうかがえます。こうした意識／イメージが多様な価値観を包込みつつ共有されることで、よりよい住まいが実現できる可能性が感じられていることが活動の成果と感じられます。

#### IV. 今後の課題

私たちが住み手主体の住まいづくりに必要なステップとして考えていることは第一にコミュニケーションの重要性です。外部の方と交流するとe n ネットの人達はもうすでにコーポラティブ住宅に住み合っている同士のようなと言われるほどコミュニケーションが深まってきました。今後は、具体的な問題に直面したときに知恵を出し会って話し合い、乗り越えていける関係づくりに取り組んでいこうと考えています。

第二には参加者全員がデザインや計画的センスを持つことです。そのために先進事例の見学も積極的に行い、具体的な計画を進める上で共有できるイメージをより豊かにして創造力を高めていこうと考えています。計画のイメージづくりとしては今年は熊本大学の建築学科に呼びかけて計画課題として集住をテーマに、共同作業で計画案作りを体験していくワークショップを企画しています。

第三には事業企画の能力です。自分たちにとって最もふさわしい事業形態を選択するための基本的な検討と敷地の選定作業も今後本格的に取り組んでいこうと考えています。

第四にはすべてのステップを通して常に広い視野を持ち続けていくことです。そのためには会としてさらに開かれた状況作りをして、積極的に仲間を増やし、コーポラティブに参加する人だけでなく、理解ある方々とのネットワーク作りを引き続き続けていこうと考えています。住み手自らが主体となる機会を存分に生かすために、常に理想を迫る姿勢を持ち、会員同士知恵を出しながら取り組んでいきたいと考えています。



みんなで忘年会